

Titibu641

秩父平成11年7月 64号

## 振武台碑の銘板設置について



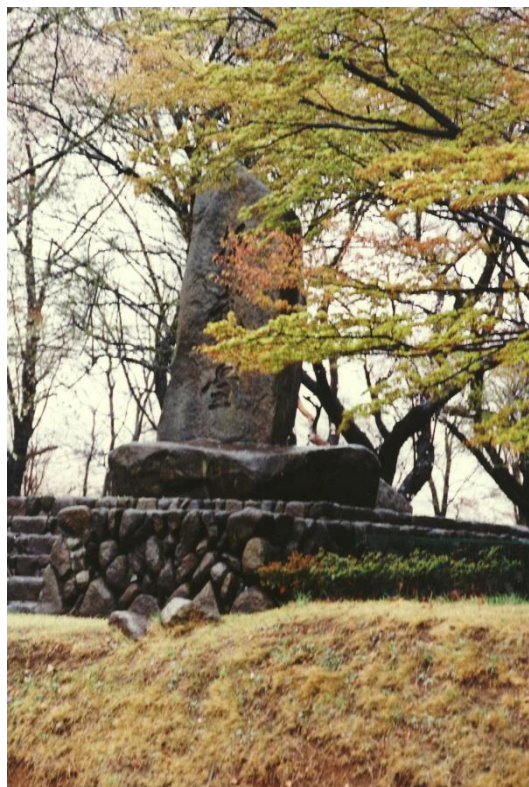
埼玉 60 代表  
**傳田信夫**  
軍 1-1  
経理  
(春日部市)

同期生諸君は既にご承知の如く、振武台は先輩の 57 期から後輩の 61 期までの総勢 17,000 名が文武の道に励んだ忘れがたい地であり、その名の『振武臺』は昭和 18 年 12 月 9 日昭和天皇行幸の砌り賜った由緒ある台名ある。それを記念して昭和 19 年に旧正門を入った左側に武台碑が建てられ、陸上自衛隊の朝霞駐屯地となった現在もその構内に懐かしい姿を止どめている。振武台碑の裏面には山田乙三大将による振武台碑由来記が刻み込まれているが、残念ながら五十数年経過した現在は風雨に曝され殆ど判別できない状態になっている。

そこで、振武台を擁する埼玉 60 期生会としては、振武台碑由来記の内容を復元するとともに、この地に陸軍予科士官学校が存在し、報国の理念に燃えた若人が日夜研鑽に励んだ史実を後世に残すべく、その内容を記した銘板を作成し、振武台碑の傍らに設置することを提案するものである。この銘板の内容およびその実現の方法についてはまだ十分に煮詰められてはいないが、直接の関係者である 57 期～61 期が中心になり、原案を作成し、計画を推進するこ

とを期待し、各期代表を始めして各方面の関係者に対し、本計画の趣旨を理解して戴くための説明を鋭意行っている。

60 期生会に対しては、平成 10 年 4 月、当時の朝霞駐屯地司令野中陸将補の内諾を得た上で、平成 10 年本部常幹、幹事会および同 11 年の全国代表者会同、幹事会等において本計画の内容を説明するとともに、60 期全体の問題として組織的に検討し、実行してもらうために全国代表幹事および各関係部署に対しての働き掛を継続的に行っている。埼玉 60 の会員は基より、本計画にご関心をお持ちの同期生には、本計画実現のために絶大なるご支援を賜わりたいようお願いする次第である。



振武台碑

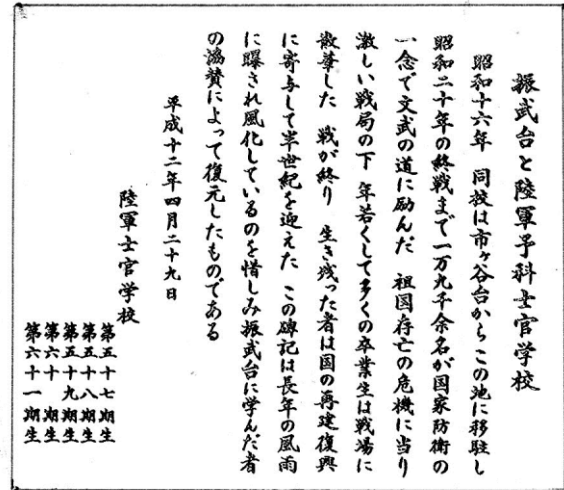
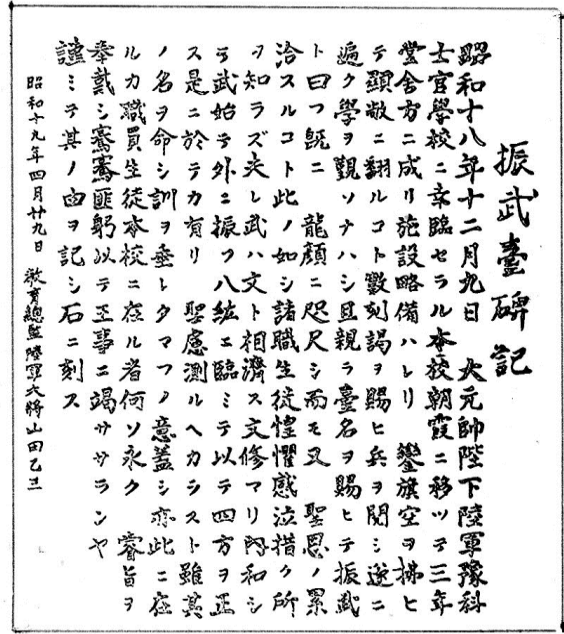
# 振武台碑銘板竣工式

平成12年4月29日11時より陸上自衛隊朝霞駐屯地において、来賓及び関係者約80出席のもと竣工式が行われた。

この「振武台碑銘板」は振武台に現存する振武台碑の傍らに御影石の台に、振武台碑の裏面に刻まれた山田大将の「振武台碑記」および振武台と陸軍予科士官学校との関連を記載した「振武台由来文」を刻み込んだ中国産花崗岩製のプレートを詰め込んだものである。

式には山田乙三大将のご子息二郎氏、牧野四郎校長のご子息弘道氏が参列され、それぞれご父君の思い出話をされた。

寄付金は約1500名を越える方々か500万円余集まり、今回の工事費等約200万円を差し引いても約300万円の余剰金が出た。この余剰金は引き続き振武台委員会が管理し、振武台記念館や雄健神社旧跡等の保存、修復等有効に使用する道を検討するとのこと。(川島順記)



振武台碑記と振武台由来文

振武台碑周辺整備事業

傳田 信夫 軍1-1  
(春日部市) 経理

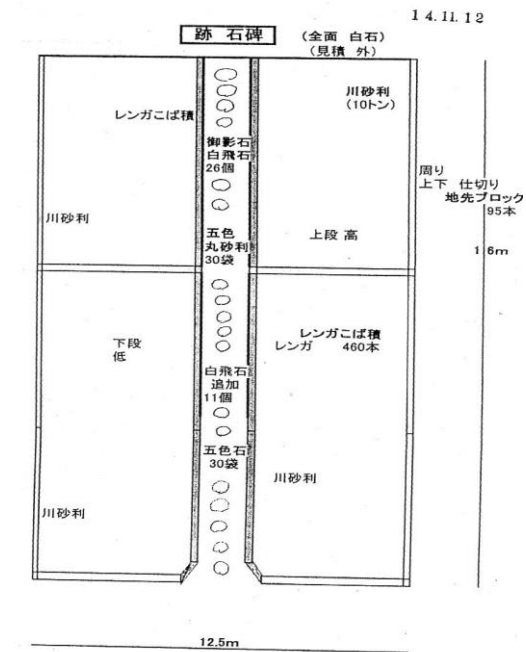
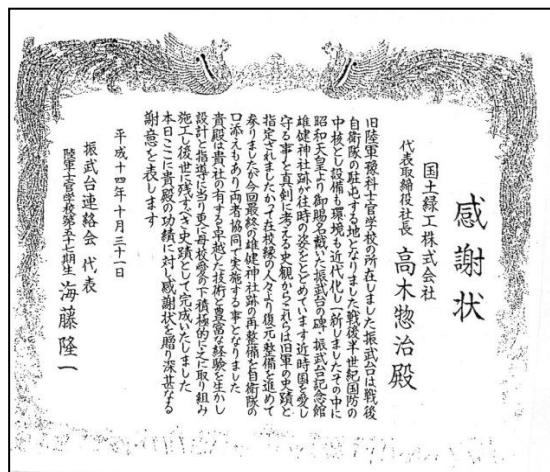
朝霞駐屯地内の旧軍関係の「振武台記念館」が自衛隊の史跡として取り上げられて以来、振武台碑、雄健神社等の史跡を更に整備しようという気運が盛り上がり、自衛隊の要請もあり、昨年初めに廃屋に近い状態に放置されていた雄健神社周辺整備計画が急浮上した。

この事業を実行するため陸士関連5期（57期～61期）連絡会（代表海藤隆一：57期）が結成され、地元埼玉の60期委員（伝田信夫）が事務局を担当することとなった。

実際の工事は国土緑工(株)（代表高木惣治⑩）が担当した。この事業は工事図に示す通りに雄健神社跡の石碑の前に幅約12m、長さ約16mの川砂利を敷き詰めたアプローチを造り、その中に玉砂利と飛び石を配した参道を設けたものである。この工事は平成14年10月完成したが、この整備を基礎として自衛隊が愛情と厳粛な気持ちを持ってさらに周辺環境整備を進めていくとの幹部の言葉もあった。さすがしく整った環境の中を隊員が散策し、嘗て防人を志した陸士の先輩を想起し、我等の聖地を継承してくれる事を信じたい。

採算を度外視した良心的な施工に対して、振武台連絡会海藤隆一代表より国土緑工(株)に対して次のような感謝状が授与され

た。



雄健神社跡石碑前のアプローチ

